

保護者様

長崎市立小江原小学校

校長 松尾 真由美

学校評価アンケートの結果について

向春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
 日頃より、本校教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
 さて、学校評価アンケートにつきましては、お忙しい中にご回答いただき、誠にありがとうございました。アンケート結果の集計が終わり、先日、「学校評議員会」を開催して対策等の見直しを行いましたのでご報告いたします。
 なお、この結果は、今年度の教育活動の効果等を振り返る貴重な資料とし、今後の教育活動に生かしてまいります。

1 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果 (肯定的割合・%)			分析及び改善策
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91	64	46	教育目標の達成については、肯定的割合が昨年度より保護者で16ポイント、教職員で46ポイント下がっている。今年度、教職員は生活指導案件への対応に追われた。学校や社会でのルールやマナーを指導する「他律」に陥らざるを得ないケースが多々あり、その結果も数値に表れていると考えられる。まずは、事あるごとに児童に状況を説明しつつ、その後の行動を考えさせる指導から共通理解のもと丁寧に共通実践を図り、教育目標の達成を目指す。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	84	73	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	58	62	8	「ルールやマナー」「挨拶」の項目は、保護者・教職員評価の肯定的割合が依然として低い数値となっており本校の継続課題である。さらに、今年度は「人権教育」の項目においても、教職員評価の肯定的割合が低い数値となっている。数値の程度から見ると、もはや応急的な指導ではなく、全校的な取組策を考え、継続的・長期的な指導を行う必要がある。規範意識、人権意識の向上を図るべく全教職員で話し合い対応したい。
		挨拶をよくしている	86	56	62	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	98	91	92	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	80	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	67	65	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97	73	50	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	97	82	83	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94	79	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	93	84	91	どの項目も、児童の肯定的割合は高く昨年度より上がっている。特に今年度は、交流活動も含めた地域学習活動が、生活科や総合的な学習の時間を中心に行うことができ、児童の地域に対する愛着が高まったものと考えられる。「家庭学習習慣」に関しては、保護者と教職員の肯定的割合が低かった。与えられた課題のみの学習から自主学習への変換を図る工夫はしているが、引き続き家庭への啓発を行っていく。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	95	81	92	
		家庭学習の習慣が身に付いている	88	69	67	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	92	69	92	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	99			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	91	83	100	「衛生管理」「基本的生活習慣」「食育」とともに肯定的評価割合が昨年度より1～13ポイント上がっている。家庭の協力が必須であるため、今後とも育友会と連携し学校保健委員会や懇談会で話題として挙げ、健やかな体づくりへの取組を進める。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	79	85	83	
		体力向上に努めている	94	85	92	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	85	78	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	95	81	100	情報提供の項目で保護者の評価が低い。教育活動に関わる情報は、紙媒体だけでなく連絡アプリでの発信やHPへの掲載を行っているが、その頻度や周知が不十分であったと考えられる。今後はこの点での改善を図ってきたい。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	95	70	100	
	P T A ・ 地 域 携 との 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	95	85	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	92	56	100	環境整備の項目で保護者評価が低い。トイレ設備等ハード面での整備は早急な対応は困難である。不用品の廃棄や整理、廊下や教室の掲示物の工夫等、実現可能な環境面での整備を行ってきたい。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

2 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

保護者・教職員ともに、教育目標の達成について肯定的割合が低い結果であった。その原因は、心の教育領域における「生活・生徒指導」「いじめ防止対策」「人権教育」の項目における低評価のためであると考えられる。

今年度校内では、きまりや約束事を守れない、他者の気持ちを想像できない、自分の気持ちを適切に表現できないなどの理由から、暴力・暴言等の問題行動が頻発した。「全ての教職員で全ての児童を育てる」という共通理解のもと、教職員複数体制での対応を図ってきたが、子どもたちが安心して学習・生活できる環境が十分には整わなかったことが評価結果に影響したと考えられる。また、児童の様々な問題に直面するにあたり、教職員の生徒指導、さらには保護者連絡・対応に関するスキルアップも図っていく必要があったと感じている。

よって、今後は、心の教育領域への改善策の強化と教職員の生徒指導等に関する研修機会の確保が対策として求められる。早速、3学期からその足掛かりとして、『「小江原小よい子のルール」「よくわかる小江原小」の意味理解も含めた再度の確認と指導、掲示の徹底』『児童の関わり力を高めるソーシャルスキルトレーニング「ばるっこタイム」(毎週1回朝の時間帯)の設定と複数人体制での実施』『お互いに理解し支え合う児童を育てる「人権教育の推進と学級の支持的風土の醸成活動」』を実践している。

学期末に再度振り返り、改善すべき点は改善して今後も継続していく。また、保護者の協力なしには改善できない部分については、家庭教育充実のために啓発を行うとともに、児童自身にもその重要性を指導し、改善への意欲が高まるように励ましていきたい。

3 学校関係者評価

- ・あらゆる手立てを打ちながら、学校教育目標達成のため更なるご尽力をお願いしたい。
- ・児童への指導だけでなく、保護者との連絡を密にし、家庭での保護者からの指導、協力を促すことは必要である。
- ・授業の様子を見ると、当たり前のことをできていない児童が多かった。多くの児童が流されることなく、学習課題に向き合っていたが、両極端な印象を受けた。
- ・打たれ強く、たくましく育つためにも、いろいろな子どもたちがいる中で活動していくことは大切なことである。
- ・子ども同士の関係性がよくない状況だと、居場所がなくなっていきトラブルにつながる。子どもの気持ちをくみ取りながら関係性を改善していったほしい。
- ・人と人とのより良い関わり方を教えていく必要がある。
- ・今年度は、これまで出来なかった児童との交流活動が出来て良かった。子どもたちの反応が嬉しかった。
- ・挨拶は以前よりも良くなっていると感じる。こちらから挨拶するとしっかり、丁寧に返してくれる。

4 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○心の教育領域に関しては、まず「小江原小よい子のルール」「よくわかる小江原小」の定期的な説明・確認を行い児童にルールを守ることが安全な学校生活につながることを理解させ、実践できるようにしていく。さらには、児童の関わり力を高めるトレーニングを継続して行い、学級の支持的風土の醸成や人権意識の高揚を図ってきたい。また、人権教育については、外部機関と連携し講師をお招きするなどして推進の策を探っていく。

○確かな学力に関しては、交流活動も含めた地域学習活動を今後も幅広く継続していく。

○健やかな体に関しては、各家庭や育友会保体部と連携・協力しながら児童の基本的な生活習慣の確立を求めていくが、学校では体力向上に関しての具体的策を検討し実践していく。

○信頼される学校のために、学校HPや連絡アプリを活用した積極的な情報公開を進めていく。また、人材育成という観点から教職員のスキルアップのための研修会を充実させるべく、研修機会の確保と研修体制の整備を図っていく。